

感じる くにさき

国見/千燈トレッキングダイジェスト



1300年の祈り、 そして未来を見つめるゴームリー像 仏×現代アート

歴史深い山を登り、
スピリチュアルな旅へ

国東半島は、瀬戸内海に突き出たほぼ円形の半島で、火山活動を通じて形成されました。半島中心部の両子山から穏やかな傾斜が続く円錐形を成し、30数個の谷が周辺に向かって伸びています。そこに6つの郷が形成され、それらは、田染、来縄、伊美、国東、武蔵、安岐(総称して六郷)です。そして、六郷に点在する寺などを総称して六郷満山と呼ばれています。

起源については、718年、宇佐神宮の神宮寺である宇佐弥勒寺の初代別当に任じられた法蓮たちが、修行の場を目指して、国東半島の峰に入っていたのが始まりと言われています。平安時代(1168年)には、計65の寺が創建され、それらは、役割から、学問、修行、布教の3種類に分類されています。鎌倉時代には、寺の数が183まで増え、最盛期を迎えます。

しかしながら、その後、時代は戦国時代に移り、江戸時代にはわずかな檀家を持つ村の寺院として存続することになりました。明治維新後、明治政府は神仏分離令を出し、その動きにより、六郷満山文化に痛々しい傷跡を残しました。しかし、未だなお、山奥にひっそりと建つ寺、参拝者が絶えない寺、そして日本の石仏の70%がこの地に残されており、今でも寺の行事が村の行事として残されるなど、これらは古代より続く人々の祈りの形でもあります。そして、2018年、国東半島は、六郷満山が開かれて1300年を迎えます。





旧千燈寺跡仁王像



奥の院



五輪塔群

千燈を 歩く

古の仏と現代アートに触れる千燈トレッキングへようこそ。

千燈地区は、広大な自然に囲まれ、国東半島における仏教を開いた伝説の仁聞菩薩を始めとして修行が数多く行われてきた長い歴史を有しており、国東半島を象徴する場所の一つです。千燈地区には、多数の歴史的文化財とともに現代アート作品が設置されている場所でもあります。

この千燈トレッキングコースは、まず、聖地と俗界を区切る旧千燈寺の山門からスタートします。



奥の院の左の岩肌の磨崖仏

その山門を過ぎると、供養塔の一つである宝篋印塔(ほうきょういんとう)があります。ここは僧侶の西行が住職の器量をはかろうとこの場所まで登ってきたが、ここで会った小僧の見事な受け答えにより、会わずとも住職の器量が分かるということで引き戻したと伝えられており、西行戻しとも呼ばれています。

次に、もう一つのゲートとして、お寺を守る鎮守社である六所権現社の鳥居が出向かえます。お寺には鎮守の社があり神社には神宮寺があるのが、神仏習合の特徴といえます。国東半島では鎮守社と言えば、六所権現のことで、宇佐神宮との強いつながりを示しています。

さらに進むと旧千燈寺仁王像に出会えます。仁王像は、口を開けた阿形と口を閉じた吽形の一对で、阿(ア)は最初の音、吽(ン)は最後の音なので、これらはものごとの最初と最後を象徴しています。ルーツは、バラモン教を始めとするインドの諸宗教の呪文で、中国で翻訳された言葉になります。基本的には、寺域を守護する仏として木造で山門の左右にあることが多いですが、国東の仁王像は神社等にも立ち、石造であることに特徴があります。旧千燈寺跡の仁王像は鎌倉時代のもので、半肉彫りのレリーフ状でとても珍しいものとなっています。

さらに石段を上ると、岩壁に自然にできた洞窟に建てられた奥の院がお目見えします。奥ノ院は本堂より高い位置に建てられるもので、御本尊は開帳されていないものの、ひな壇上に100体ほどの石仏が並べられています。奥ノ院の左の岩肌には、磨崖仏をみることができます。

さらに左方向には、寺の原形とも言える岩屋があり、この岩屋は仁聞菩薩入寂の地として、枕の岩屋と呼ばれています。仁聞菩薩の墓があるのは唯一この場所だけで、六郷満山の聖地と言えるでしょう。奥ノ院の右手には寺の鎮守社として存在する六所権現社跡もあります。

さらに進むと、五輪塔と呼ばれる供養塔が群をなして約1000基ほどが置かれています。五輪とは、下部から地輪、水輪、火輪、風輪、空輪の5部分から成り、仏教における宇宙の構成要素5つを示しています。また、国東塔という国東半島独特の塔も点在しています。



枕の岩屋



六所権現跡



仁聞国東塔



仁聞菩薩の墓

感じるアート

自然の一部になり、
海を見つめる

Another Time XX

不動山には現代アートの彫刻が存在しています。

これは、国東半島芸術祭の一環として、アートの力でこの地域を活性化する目的で設置された、英国彫刻家、アントニー・ゴームリー氏の彫刻作品です。この彫刻は、ゴームリー氏の等身大の作品で自らを象ったものであり、その重量は、629kg。

設置については、数多くの対話が重ねられました。また、設置方法についても当初予定は、ヘリコプターで運ぶ予定でしたが、安全性の問題から、断念することに。途方に暮れていたところに名乗りを上げてくれたのは、林業家の園田さん。山頂に建築資材を運搬する方法で運んだ経験から、この方法を使い運ぶことが提案されました。設置場所の200m山頂までワイヤーでつなげ、何度もダミー像で練習を重ねたそうです。設置までの軌跡については、不動茶屋にあるDVDや説明文で見ることができます。

ゴームリー像は、千燈の東の方向、海を見つめて静かに佇んでいます。

国東市には他にも2つのパブリックアートが設置されていますが、選定作業は、プロデューサー、作家の感性、イメージ、維持費、耐久性の観点から行われています。

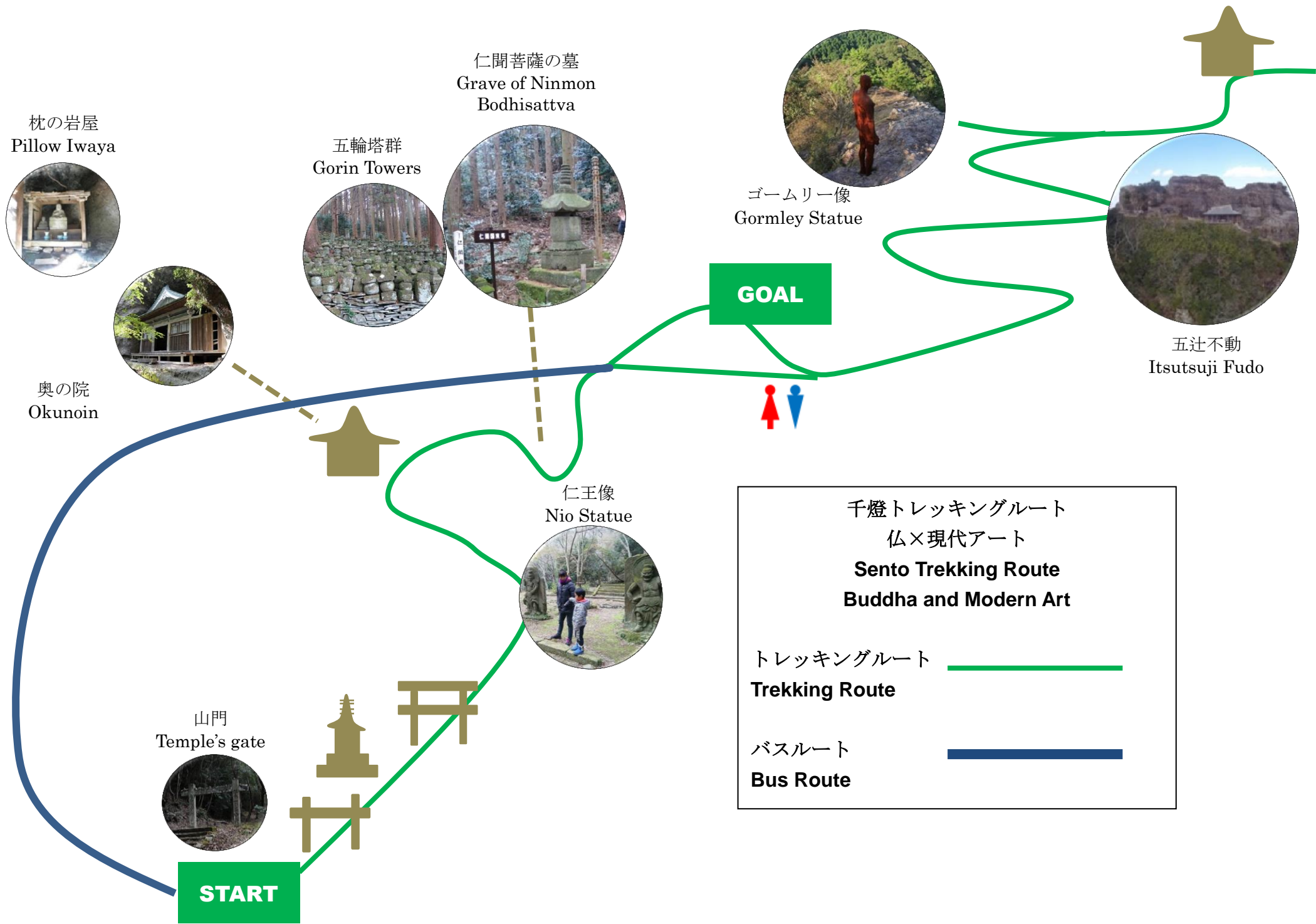
Another Time XX

「時間の物語だ」
アントニーゴームリー
は作品設置場所選定時
にこう表現した

五辻不動



最後に向かうのは、山頂付近の五辻不動尊。この場所は、仁聞菩薩と4人の僧が修行を行った場所です。ここからの眺望は、このコースのハイライトでもあります。天気の良い日は姫島を始め、中国地方や四国地方を見渡すことができます。



枕の岩屋
Pillow Iwaya



奥の院
Okunoin

山門
Temple's gate



五輪塔群
Gorin Towers



仁聞菩薩の墓
Grave of Ninmon
Bodhisattva



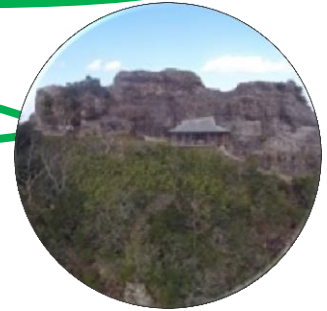
仁王像
Nio Statue



GOAL



ゴームリー像
Gormley Statue



五辻不動
Itsutsuji Fudo

千燈トレッキングルート
仏×現代アート
**Sento Trekking Route
Buddha and Modern Art**

トレッキングルート _____
Trekking Route

バスルート _____
Bus Route